

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : マウント・アリソン大学

留学期間 : 平成25年4月6日～平成28年4月末

昨年9月より大学二年生と成り、私の専攻である航空学部の授業が本格的に始まりました。大学での授業に加え、大学から車で約30分のモンクトン空港でフライトの訓練が行われます。更に夜間に航空の座学が週二回火曜木曜の5時半から8時半まで有ります。座学では①エンジンの仕組②飛行計器③飛行理論④航空法⑤フライトオペレーション⑥気象学⑦ヒューマンファクター⑧ナビゲーションの8科目を学習します。そしてフライトを始める前には英文60ページの操縦教本を読んで理解しなければなりません。ネイティブの人ならば一日で読む事が出来ますが、私の場合はまるまる三日も掛かりました。それから三週間後に四つのテストが有りました。①練習生考査②操縦練習許可証③航空無線通信士④パイロットオペレーションハンドブック(機体マニュアル)の四科目です。真剣に取り組んだ結果、四教科すべてに合格する事が出来ました。私が訓練で乗る飛行機はDiamond DA20という機種です。

そして初フライトを迎えました。一回の訓練での飛行時間は約一時間二十分です。初フライトでは酔いました。当然吐く人も少なく有りませんが、対処法としては慣れるしか有りません。学習内容は上昇、下降、左旋回、右旋回の基本から始まり、次に離着陸の訓練です。始めは着陸が本当に難しく、滑走路のセンターラインを外さずにパワーと機首の角度を調整しながら高度を落としていき、着地寸前で機首を少々上げる技術が必要で、何度も繰り返し心底苦戦しました。

次に進んで緊急時の対処法です。これも座学と実技で学びます。例えば失速からの回復、スピンからの回復、らせん降下からの回復など、すべて教官が作り出した状況の中でそれに対処します。さらにエンジン故障時の対処と不時着の訓練も行います。つまり、あらゆるトラブルに冷静に対処する能力を徹底的に学びます。これらすべての技術を習得すると、教官から単独飛行に送り出されます。初単独飛行を終えると、パイロット界の祝福の儀式が有ります。その儀式というのは氷点下の真冬であろうと直立して頭から冷水を掛けられます。これは一つの試練であり関門でありここを通過して新しい世界が開けます。私もこれを目指して頑張って参りました。

大学の受講科目は航空学以外に物理学、地理学、ギリシャ語が有り、これらの勉強も激闘でした。12月中旬に期末試験を終え1月上旬までの冬休みに入りました。季節はクリスマスシーズンを迎えていました。

私は大学の友人とケベック州のモントリオールへ三泊四日の旅行に出かけました。モンクトンから飛行機で約2時間のところですが、ケベック州はフランス語のみが公用語であり、街では至るところでフランス語を耳にし、カナダはバイリンガル国家であることを実感しました。モントリオールは1967年に万国博覧会、そして1976年にオリンピックが開催された都市です。クリスマス前後の気候は例年なら氷点下15度位ですが、この年は摂氏3度も有りました。市街地の商店街は丁度クリスマスに当たり、ほとんどの店は休みで、日

本のお正月と同じように、ひっそりとしていました。それぞれの家ではにぎやかにパーティが行われていたようです。私たちは 1829 年に完成したノートルダム大聖堂へ見学に行きました。ノートルダム大聖堂はフランスの世界遺産として有名ですが実は一箇所だけでなくフランス語で「私達の貴婦人」という意味で、つまり聖母マリアを指していることから、ノートルダムの教会は世界各地のフランス語圏の都市に建てられてきたそうです。建物の中に入って見るとコバルトブルーの祭壇に思わず息をのむ程の幻想的な光景がありました。ここモントリオールもまた、心に残る素晴らしい都市でした。

さて、新しい年を迎え、心も新たに航空の学習と実技の訓練を積み重ね 3 月 21 日、目標であった、単独での飛行を行い無事着陸に成功し第一関門を突破する事が出来ました。そしてパイロット界の祝福である水掛け儀式が待っていました。カナダの 3 月は氷点下の真冬です。先ず教官から大きなバケツで頭の上からつま先まで全身にたっぷり冷水を掛けられました。続いて同じ航空学部の生徒の三人からも思い切り掛けられました。初めての経験です。体の筋肉が硬直していくのが分かりました。言葉では表現出来ない寒さと苦しさも喜びでした。その後、カナダの国家試験である自家用操縦士免許の筆記試験があり、これにも合格する事が出来ました。ここからが本格的な出発点であり、更なる技術向上と実技試験合格に向けて努力していく決心です。